

「大切な命を守るためには」

愛知県 春日井市立篠原小学校 5年 なかにし 中西 ふみかず 史和

小学校3年生から土砂災害について夏休みに自由研究で学び、去年はぼくの住んでいる自宅周辺から学校まで実際歩き、自分なりのハザードマップを作成した。また、それを使い、ふだんは安全でも大雨がふると小さなどぶでもあふれそうな所、地ぼんがゆるんでいて土砂くずれが起きそうな所、ひなん場所の位置や経路など家族で話し合い、確認した。そして、きん急連らく先を家族で決めて、ひなんした時、家族がどこにいるのかすぐ確認できるように、何度も家族と話し合い、自分のハザードマップを修正していった。そうすることで、いざという時、安心してひなんすることができると感じた。

近年、地球温暖化の影きょうで、一度に大量の雨がふり、土砂災害の発生けん数も年々増加している。また、日本の地形において、けいしゃが急な山が多く、細くて流れが早い川がそん在するため、土砂災害が起こりやすいと社会のじゅ業で学んだ。日本の地形やかんきょうを学んだことで、今、ぼくたちが自分でできる土砂災害への備えをあらためて考えていかなければならないと思った。そして、考えられる4つの点に気付くことができた。

まず1つ目にきけんな場所を自分の地いきのハザードマップで知ること。2つ目に、土砂災害が起こる前ぶれを知ること。3つ目に、雨の状態に注意すること。4つ目に、ひなんの仕方を身に付けることが挙げられる。今回、ぼくが特に注目した点が、4つ目のひなんの仕方を身に付けることだ。土砂災害は、何か起きてからでは、ひなんしたくてもひなんできない。そこでぼくは、今回経験をした人の話を聞いたり、ニュースやインターネット、図書館を利用し、考え直すことにした。

まず最初に、土砂災害のきけんを感じたら、雨が弱いうちにひなん準備を進める。また、雨がやんでもとつ然水かさがふえることがあるため、増水後ひなんできない場合、2階以上のじょう夫な高い建物にひなんすることが大切だと分かった。

次に、ひなん場所までどうやって通って行くのか、昨年作成したハザードマップをもとに、実際に歩いて確かめた。

最後に非常持ち出しぶくろの準備をすることだ。非常持ち出しぶくろには、ひなん場所で必要な物を家族で話し合いながら準備することが大切である。実際に今年の夏休みに家族でひなんぶくろを準備した。そして、ひなんぶくろを実際に持ってみて家族で何度もひなん訓練を行った。その際、手がふさがらないようリュックサックでひなんすることが一番適切だと改めて感じた。

今年に入って、新型コロナウイルスのかく大とともに、災害時のひなん行動が見直された。今年7月、熊本県の土砂災害時もコロナ感せんをおそれ、自たくに残りひなんしなかった人もたくさんいたとニュースで知った。感せん対さくをしながらか土砂災害から自分の身を守る行動はむずかしいけれど、ぼく達は自分の命を自分で守る意識を常にわすれず、災害への備えをきちんとしていく必要があると強く感じた。

ぼくには夢がある。ドクターヘリで困っている人を救うことだ。今年7月、岐阜県の土砂災害でひ害にあった人から話を聞くことができ、消防隊や救助隊に助けられたと聞いた。またニュースやインターネットを通して、自然災害で、たくさんの命を救うしゅん間を目にしてきた。ぼくも今回学習した事をこれからも生かし、地いきの人達や学校の先生達と協力して、土砂災害への関心をたくさんの人に広めていきたいと思った。また少しでも土砂災害へのひ害が少なくおさえられるように努力していきたいと強く思った。